



中高SSHの祭典！ H30年度成果発表会



12日、H30年度中高SSH成果発表会が開催されました。今年は普通科も課題研究やディベートを発表し、中学校はサイエンス $\alpha \cdot \beta$ の授業を公開しました。他校の先生方や中高の保護者も多数参加し、終日向陽はSSH一色、まさに理数の祭典となりました。 $\alpha \cdot \beta$ の公開授業では、シルエットパズルやマシュマロチャレンジ（乾パスタでタワーを作り高さを競う）など、創作活動を中心とした数学・理科の課題に生徒は目を輝かせて取り組みました。また、高校

2年生の課題研究発表では、最近ニュースで取り上げられたブドウハゼの調査研究である「天然記念物の再指定を目指して」や「C言語による自動迷路作成プログラムの創作」、また「歴史における『美女』の定義〜クレオパトラを題材に」というユニークな研究などに、中3生は興味津々に聞き入っていました。今後目指すべく、レベルの高い研究のモデルが身近にあることは中高一貫校の大きなメリットです。中学生には自分が成長していくイメージがはっきりと見えたことでしょう。



視覚障害者理解 1年生人権学習

1年生は、14日、県立盲学校から、野尻誠先生と鎌田貴志先生を迎えて、視覚障害について学びました。今年は事前に道徳



でビデオ「自分に負けない」をみて視覚障害についての疑問を考え、それに答えてもらうという形式をとりました。視覚障害者でもある野尻先生から自身の体験を交えながら視覚障害についてお話を聞き、「色ってイメージできるのですか」「自販機でお金を払うときは分かるのですか」「薬の飲み分けはどうするのですか」「夢はみますか」「服の色の組み合わせとかはどうするのですか」など、素朴な質問に一つ一つ丁寧に答えていただきました。そして、二人組でアイマスクをして校内を歩き、見えないということはどういうことか、そして、どのように介助するのかを実際に体験から学ぶとともに、

視覚障害者の方と出会ったときに、声をかけ手をさしのべる行動の大切さを学びました。

2年生は、13日、県聴覚障害者協会の福田美枝子氏と手話通訳の酒匂美也子氏をお迎えして、聴覚障害について学びまし

聴覚障害者理解 2年生人権学習

た。まず、講師先生二人のどちらが聴覚障害者かを尋ね、見た目ではまったく分からないのが聴覚障害であることを知ることから講座は始まりました。そして、耳が聞こえないことによって、日常生活でどんなときに不便を感じるか、そして、その不便をどのように工夫して克服しているかなど身近な経験を通じて話してくれました。また、簡単な手話講座と筆談や口話など手話以外のコミュニケーションの方法を知りました。その中で、少しふざけて手話をする生徒に、「手話も一語一語が大切な言葉です。軽々しく扱ってはいけません！」と厳しく指導くださいました。改めてコミュニケーションの大切さを学ぶことができた一日でした。

